

## 高齢者を対象とした集団式認知機能検査の検討

神田 尚\* 筑波大学人間系  
山村 豊 帝京大学教育学部  
大川 一郎 筑波大学人間系

高齢者を対象とした認知機能検査の役割は、2つの視点から考えられる。ひとつは、ハイリスク・アプローチで使用されるスクリーニング検査としての役割で、もうひとつは、ポピュレーション・アプローチで使用される本人の認知機能の現状把握や認知機能訓練の効果測定 of 役割である。多くの高齢者を対象とするためには、どちらのアプローチにおいても個別対応の認知機能検査は現実的ではなく、集団式認知機能検査が求められる。そこで本稿では、従来から使用されている認知機能検査について以下の点から検討した。まず、認知症および軽度認知障がい概念について診断基準に基づき、測定する必要がある認知機能が6つの機能（記憶機能、注意と抑制機能、実行機能、視空間認知機能、言語機能、情報処理速度）であることを明確にした。次いで、集団式認知機能検査の要件は、認知機能検査の構成概念妥当性、感度、実施時間、実施手続き、実施方法であることを示した。最後に、15の認知機能検査について、集団式認知機能検査の要件を満たしているか確認し、集団式認知機能検査のあり方について提示した。

キーワード ⇒ ハイリスク・アプローチ, ポピュレーション・アプローチ, 集団式認知機能検査, 高齢者, MCI